

「OODA(ウーダ)ループを活用した短期の意思決定 サイクル構築」 観点II-7、8

佐伯市立下堅田小学校
児童数129名 学級数9

目的

早急な対応が必要な事柄について、4点セットのPDCAサイクルと並行してより短期の検証・改善サイクルを構築することで、迅速かつ柔軟に対応する。

特別支援教育の体制整備むけて、OODAループによる短期の意思決定サイクルで迅速に対応

取組内容

ウーダ
OODAループ



※O～Aのループ
による迅速な
意思決定方法

1サイクル約3～5カ月

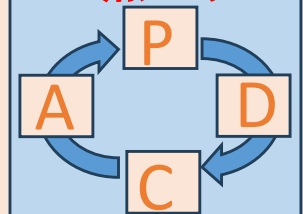
観察・現状認識 (Observe)

- ・質問紙(スクリーニング①)
- ・行動観察(スクリーニング②)
- ・担任面談(オフセットミーティング)

※不定期的な会議



4点セット



※長期の見通しが持てた時点で4点セットのPDCAに組み込む。

実行 (Action)

- ・「相談支援ファイル」活用促進
- ・多職種連携、幼稚園等訪問
- ・教育環境のUD化促進



状況判断 (Orient)

- ・保護者への相談窓口の周知
- ・情報の更新と情報共有
- ・外部機関との連携

意志決定 (Decide)

- ・情報の「共有と活用」へ転換
- ・多様なサポート体制の確立
- ・校内研修の定期的な実施



成果

・基礎情報の精査や支援機関の拡大で、学校をプラットフォームとした地域・家庭・学校の連携支援が充実し、一人一人の子どものタイムリーで効果的な支援を可能にした。

【OODAループによる意思決定で特に意識したこと】

①観察・現状認識 (Observe)

- ・視点をもって継続的に視座を変えながら観察し、気づきを共有すること。

②状況判断・方向づけ (Orient)

- ・観察した内容を分析(「個別ニーズ把握活用シート」に情報を集約)し、ビジョンを明確にすること。

令和 年度 個別ニーズ把握活用シート 佐伯市立下堅田小学校

学年	基礎情報			診断・検査結果・服薬状況	関係療育機関 (医療・福祉・GP・SSW等)	各種手帳・計画 作成状況	現在の状況			
							身辺自立	学習面	生活面 (コミュニケーション)	家庭環境
例 4	名前	山田 太郎	男	診断: ADHD(H30.3) 検査: WISC-IV(H30.2) 全87言67知85ワ71処96 服薬: コンサータ18mg 朝家庭で服薬	医療 ・大分〇〇療育センター (1年生～) 0975-55-〇〇55 主治医: 二宮Dr 担当: 山本OT 工藤ST 3年生で療育支援終了 GP 個別通室 担当: 佐藤 隔週で1回利用 福祉 ・相談支援専門員: 首藤 放課後等デイサービス (〇〇) 月・水・金利用 保育所等訪問 (△▲) 担当: 小野ST ・家庭児童相談員: 田中 母親の相談、週1回家庭支援	障害者手帳 B1 きずな 〇 個別指導計画 〇 教育支援計画 〇 各種手帳 特児就援	・基本的な生活習慣等きちんと身につけている。 ・忘れ物が多い。	・授業中、落ち着きがなく、みんなと違う行動をすることがよくある。 ・衝動的な行動になりそうときには、支援員を呼び個別の対応(クールダウン等)をしている。 ・学年相応の学力はあるが、字が乱雑で、自分の思いを文章で表現することは難しい。 ・工作、実験、体育では補助が必要	・午前中は落ち着いていることが多い。午後服薬の効果が薄れ、友達とトラブルになることが多い。 ・昼休み中、嫌なことがあると、直ぐに手足がでてしまう。 ・自分の思いを言葉で伝えることが苦手。 ・突然のルール変更、暗黙了解がわからない。	・母、祖母、妹の4人家庭 ・母親は、夕方からの仕事のため、祖母が面倒を見ることが多い。 ・母親への連絡は、昼～16時までがよい。
	支援員対象		〇							
	通級指導教室									
	特別支援学級 (知的・情緒)									
	SC・SSW		〇							

③意思決定 (Decide)

- ・ビジョンとの整合性と取組の一貫性の確保及び影響を想定すること。

④実行 (Action)

- ・すぐに動くこと、目的を見失わないこと、次の観察 (Observe) を始めること。